

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1 年	15	人体構造と機能Ⅰ
1 年	16	人体構造と機能Ⅱ
1 年	17	人体構造と機能Ⅲ
1 年	22	医学概論
1 年	23	救急救命医療概論
1 年	29	救急症候学Ⅰ
1 年	35	疾病救急医学Ⅰ
1 年	43	外傷学Ⅰ
1 年	47	救急救命シミュレーションⅠ

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング EM-1-HAP-02				
	●	●								
科目名	人体構造と機能 I				単位 認定者	櫻井 雅浩		評価 の 方法	試験 (レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	筋・骨格系、神経系、皮膚系について学修する。四肢の主な骨格筋や骨・関節、靱帯・腱、脊柱の構造等、筋・骨格系の構造と機能について学ぶ。神経系は、神経系の構成と役割、中枢神経系、末梢神経系、伝導路、自律神経系、脳循環、意識、反射等の知識を修得する。皮膚系では、皮膚を構成する表皮、真皮、皮下組織や皮膚付属器等の構造とその役割について学修する。									
到達目標	1. 頭部の構造と機能が説明できる。 2. 脳、体性、自律、及び末梢神経の機能が説明ができる。 3. 主な神経症状が説明できる。 4. 骨と筋肉、及び頸部の構造と機能が説明できる。 5. 上肢、手、脊椎、骨盤、及び大腿の構造と機能が説明できる。 6. 膝関節、下腿、及び足の構造と機能が説明できる。 7. 皮膚の構造と機能が説明できる。									
学修者への期待等	各講義の予習、および復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。									
回	授業計画					準備学修				
1	頭部の構造と機能					第1回講義内容の30分間の予習				
2	脳神経の種類と機能					第2回講義内容の30分間の予習、及び第1回講義内容の30分間の復習				
3	体性神経、自律神経、及び末梢神経の機能					第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義内容の30分間の復習				
4	神経系総論（意識障害、頭痛、めまい）					第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義内容の30分間の復習				
5	骨と筋肉、及び頸部の構造と機能					第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義内容の30分間の復習				
6	肩、及び上腕の構造と機能					第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義内容の30分間の復習				
7	前腕、手、脊椎、骨盤、及び大腿の構造と機能					第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義内容の30分間の復習				
8	膝関節、下腿、足の構造と機能、皮膚の構造と機能					第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義内容の30分間の復習				
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容に付いて良く学修して下さい。									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						EM-1-HAP-03				
	●	●								
科目名	人体構造と機能Ⅱ				単位 認定者	櫻井 雅浩		評価 の方法	試験 (レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	呼吸系、消化系、循環系について学修する。呼吸系は大きく肺系（気道系、肺胞系）と胸郭系（肋骨系、横隔膜系、腹膜系）に分かれている。呼吸系の構成と役割、気道、胸郭、肺、肺胞でのガス交換、血液での酸素の動き、呼吸の調節等についての知識を修得する。消化系については、消化器、口腔・咽頭、消化管、肝臓・胆道系、膵臓、腹膜・腹腔等について学ぶ。循環系は血液を送り出し、身体のすみずみまで酸素、栄養素やホルモンなどを搬送し、二酸化炭素、代謝産物などを運び去ることにより、生体の恒常性を保ち、生命維持のための重要な役割を果たしている。循環系の構成と役割、心臓、脈管、循環の制御についての基礎的な知識を修得する。									
到達目標	1. 気道と肺の構造と機能が説明できる。 2. 肺循環と呼吸運動が説明できる。 3. 呼吸の仕組み、呼吸機能、及び酸と塩基について説明ができる。 4. 消化系（腹壁、食道、胃十二指腸、腸、肝臓、及び膵臓）の構造と機能が説明できる。 5. 上下消化管検査、及びピロリ菌検査について説明ができる。 6. 単径部の構造が説明できる。 7. 循環系（心臓、及び血管）の構造と機能が説明できる。									
学修者への期待等	各講義の予習、および復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。									
回	授業計画					準備学修				
1	気道、及び肺の構造と機能					第1回講義内容の30分間の予習				
2	肺循環、及び呼吸運動					第2回講義内容の30分間の予習、及び第1回講義内容の30分間の復習				
3	呼吸の仕組み、呼吸機能、及び酸と塩基					第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義内容の30分間の復習				
4	消化系（腹壁、及び食道）の構造と機能、上部消化管の検査					第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義内容の30分間の復習				
5	ピロリ菌検査法、消化系（胃、十二指腸、肝臓、及び膵臓）の構造と機能					第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義内容の30分間の復習				
6	消化系（小腸、大腸、及び直腸）の構造と機能、下部消化管の検査、単径部の構造					第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義内容の30分間の復習				
7	循環系（心臓）の構造と機能					第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義内容の30分間の復習				
8	血管系の構造と機能					第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義内容の30分間の復習				
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容に付いて良く学修して下さい。									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング EM-1-HAP-04				
	●	●								
科目名	人体構造と機能Ⅲ				単位 認定者	櫻井 雅浩		評価 の 方法	試験 (レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	生殖系、内分泌系、血液・免疫系、泌尿系、感覚系について学修する。生殖系は、男性生殖器と女性生殖器、性周期の知識を修得する。内分泌系では、内分泌と外分泌、内分泌の器官とその役割について、血液・免疫系では、血液、血球、血漿、血液型、骨髄、脾臓、止血と凝固、免疫について学ぶ。泌尿系では、腎臓や尿路等、泌尿系を構成する器官とその役割、尿生成の過程について、感覚系では、感覚系の構成と役割、視覚、聴覚・平衡感覚、嗅覚、味覚、体性感覚等の知識を身につける。									
到達目標	1. 泌尿器系、及び生殖系構造と機能が説明できる。 2. 内分泌系の構造と機能が説明できる。 3. 血液の成分と機能が説明できる。 4. 出血と止血について説明ができる。 5. 感覚系（嗅覚、視覚、味覚、聴覚、体性感覚）の構造と機能が説明できる。 6. 感覚系（平衡感覚、発声、嚥下、唾液、鼻汁）の構造と機能が説明できる。									
学修者への 期待等	各講義の予習、及び復習を行ってください。復習は講義後1～2日目に行ってください。特に復習の習慣をつけて下さい。									
回	授業計画					準備学修				
1	泌尿器系の構造と機能					第1回講義内容の30分間の予習				
2	泌尿器系、及び生殖器系の構造と機能					第2回講義内容の30分間の予習、及び第1回講義内容の30分間の復習				
3	内分泌系の構造と機能					第3回講義内容の30分間の予習、及び第2回講義内容の30分間の復習				
4	生体の防御機構					第4回講義内容の30分間の予習、及び第3回講義内容の30分間の復習				
5	血液の成分と機能					第5回講義内容の30分間の予習、及び第4回講義内容の30分間の復習				
6	出血と止血の病態					第6回講義内容の30分間の予習、及び第5回講義内容の30分間の復習				
7	感覚系Ⅰ（嗅覚、視覚、味覚、聴覚、体性感覚）					第7回講義内容の30分間の予習、及び第6回講義内容の30分間の復習				
8	感覚系Ⅱ（平衡感覚、発声、嚥下、唾液、鼻汁）					第8回講義内容の30分間の予習、及び第7回講義内容の30分間の復習				
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂版第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	資料の配布を行うので、その内容に付いて良く学修して下さい。									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-01				
	●	●	●	●						
科目名	医学概論				単位 認定者	堀口 雅司		評 価 の 方 法	試験 (レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
					授業形態	講義	授業回数		10 回	
授業の概要	医学とは、人体の構造や機能、疾病について研究し、疾病を診断・治療・予防する方法を開発する学問であり、病気の予防や治療によって健康を維持、回復するために発展した様々な医療を包含している。「医学概論」では、「医学とは何か」に始まり、我が国の保険医療体制や各種制度の概要等について学ぶ。また、医学・医療の進歩とともに重視されるようになった「医の倫理」についても理解を深め、コメディカルスタッフとしての倫理観を養う。さらに、救急救命士の役割と関連する法令、救急救命士のストレスマネジメント等についても学修する。									
到達目標	救急医学の本質、科学的思考について説明できる。生命倫理、医の倫理、救急救命士の職業倫理と責務について説明できる。保健医療体制の仕組みと現状について説明できる。救急活動でのストレス反応とその対策について説明できる。									
学修者への期待等	事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。救急医学を学ぶ上での基礎となる科目です。									
回	授業計画					準備学修				
1	人間と人間生活（身体、心、生活）					テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
2	科学的思考の基礎（科学的思考の必要性と項目）					テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
3	生命倫理と医の倫理（生命倫理に関する原則、ヒポクラテスの誓い等）					テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
4	生命倫理と医の倫理（傷病者の権利を守る立場から、救急救命士の職業倫理）					テキスト第Ⅰ編基礎分野 第1章「社会と医療」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
5	保健医療制度の仕組みと現状（健康と公衆衛生、医療を取り巻く環境）					テキスト第Ⅰ編基礎分野 第2章「健康と社会保障」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
6	保健医療制度の仕組みと現状（医療供給体制、さまざまな保健衛生）					テキスト第Ⅰ編基礎分野 第2章「健康と社会保障」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
7	救急救命士に関連する法令（法令の基本、救急救命士法）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
8	救急救命士に関連する法令（医師法、保健師助産師看護師法、消防法、その他の法令）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
9	ストレスに対するマネジメント（救急活動でのストレス）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
10	ストレスに対するマネジメント（ストレスへの対応）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第1章「救急医学概論/病院前医療概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版									
参考文献	「医の倫理と法」（改訂第2版）森田泰彦、南江堂 「現代医学概論」（第2版）柳澤信夫									
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却してフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
「救急救命士として実務経験を活用して、医療人としてのあり方、倫理、法律について教授する。」 「救急隊長としての実務経験、公認心理師としての視点を活用して、救急救命士のストレスマネジメントについて教授する。」

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-IEM-02					
	●	●	●	●							
科目名	救急救命医療概論				単位 認定者	平川 正隆		評価の 方法	試験 (レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %	
						授業時間数	40 時間				
					授業形態	講義	授業回数		20 回		
授業の概要	保険医療体制や各種制度についての知識を深め、救急搬送体制、救急医療機関の役割と要件、周産期・精神科・小児救急医療体制の役割、ドクターカー・ドクターヘリでの診療、メディカルコントロールの概念と具体的な内容等について学修する。また、消防機関における救急活動の流れや救急活動時のコミュニケーションについても学ぶ。救急救命士が担う救護体制について、実践的な知識を身につける。										
到達目標	1. 病院前救護体制とメディカルコントロールの概念及び内容について説明ができ、救急医療体制との関係性が説明できる。 2. テキスト内の各項目に記載されている分類表や図等を説明できる。										
学修者への期待等	テキストを熟読すること。単元の内容を整理して理解するようにしてください。										
回	授業計画					準備学修					
1	救急業務の沿革					テキスト内の表にも注目するようにして授業に臨む（概ね30分）					
2	応急救護体制・救急搬送体制・病院前診療体制					テキストの各項目を予習して臨む（概ね1時間）					
3	救急受け入れ体制Ⅰ（医療機関について）					初期・二次・三次医療機関の特徴について予習して臨む（概ね1時間）					
4	救急受け入れ体制Ⅱ（救急受け入れ体制の現状と課題）					総務省統計を一読して授業に臨む（事前に資料は提示いたします）					
5	メディカルコントロール					メディカルコントロールの章を予習して臨む（概ね1時間）					
6	メディカルコントロールとプロトコル					メディカルコントロールの章を予習して臨む（概ね1時間）					
7	消防機関における救急搬送体制Ⅰ（通報から医療機関搬送まで）					通報から医療機関搬送までの流れを予習して臨む（概ね1時間）					
8	消防機関における救急搬送体制Ⅱ（搬送記録と関連機関）					活動記録と関連機関についてを予習して臨む（概ね1時間）					
9	救急業務の現状と課題					医療体制から搬送体制までの整理・復習して授業に臨む（概ね1時間）					
10	救急活動時のコミュニケーションⅠ（接遇とコミュニケーション）					第1章4 救急活動時のコミュニケーションを予習して臨む（概ね1時間）					

回	授業計画	準備学修
11	救急活動時のコミュニケーションⅡ（インフォームドコンセントとDNAR）	事前に事例提示する予定です。各自発表できるように意見をまとめて臨む（概ね1時間）
12	救急救命士に関連する法令Ⅰ（法令の基本・救急救命士法）	法令の基本と救急救命士法を予習して臨む（概ね1時間）
13	救急救命士に関連する法令Ⅱ（救急救命士法）	テキスト262～263ページの表を予習して臨む（概ね30分）
14	救急救命士に関連する法令Ⅲ（医療関係領域で関連する法律）	消防法他の関連法律を予習して臨む（概ね1時間）
15	救急救命士に関連する法令Ⅳ（行政関係領域で関連する法律）	テキスト内の関連法律を予習する他、関係する機関も調べ予習して臨む（概ね1時間）
16	救急救命士の生涯教育	テキスト271～275ページを予習して臨む（概ね30分）
17	安全管理と事故対応	テキスト276～281ページを予習して臨む（概ね30分）
18	感染対策・感染症対策の実際	テキスト282～293ページを予習して臨む（概ね1時間）
19	ストレスに対するマネジメント	テキスト294～297ページを予習して臨む（概ね30分）
20	救急救命医療概論まとめ（反転授業：救急医療体制）	各章、各項目の要点を再確認し、各自が居住又は生活している地域の救急医療体制を事前に調べ、問題点を抽出して臨む（概ね2時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「標準 多数傷病者対応MCLSテキスト」監修・一般社団法人日本災害医学会 編集・大友康裕、ぱーそん書房	
参考文献		
備考	進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性があります。授業においては適宜フィードバック（質問やミニテスト）を行います。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
救急救命士及び地域メディカルコントロール委員としての実務経験に基づいた必須事項を中心に授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-ESP-02					
	●	●		●							
科目名	救急症候学Ⅰ				単位 認定者	平川 正隆		評価の 方法	試験 (レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %	
						授業時間数	40 時間				
					授業形態	講義	授業回数		20 回		
授業の概要	傷病者本人が自覚する心身の異常を症状または自覚症状といい、他者によって観察される客観的な所見を徴候または他覚的所見という。症状と徴候をあわせたものが症候であり、救急症候学は救急医療に関係の深い症候を扱う臨床医学のひとつである。「救急症候学Ⅰ」では、主に意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい等について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命の現場において遭遇することの多い症候に関する知識を身につける。										
到達目標	救急医療に必要な症候を理解し、個別疾患へと結びつける観察ができ、重症度・緊急度評価ができる。										
学修者への期待等	テキストを熟読すること。熟読して医療用語等を予習して、授業で深めた内容の理解を予習において知識を自分のものとしてください。										
回	授業計画					準備学修					
1	意識の概要・意識をつかさどるもの					テキスト 90～91 ページを予習して臨む（概ね 30 分）					
2	意識障害の原因・随伴症状					テキスト 488～491 ページを予習して臨む（概ね 1 時間）					
3	意識障害の判断を要する病態、緊急度・重症度判断					前 2 回の授業を復習して臨む（概ね 1 時間）					
4	意識障害における現場活動、医療機関選定、病院搬送					前 3 回の授業を復習して臨む（概ね 30 分）					
5	頭痛					テキスト 80～84・89 ページを予習して臨む（概ね 1 時間）					
6	頭痛の発生機序、原因					テキスト 492～493 ページを予習して臨む（概ね 30 分）					
7	頭痛の性状、随伴症状					テキスト 493～495 ページを予習して臨む（概ね 30 分）					
8	頭痛における緊急度・重症度の判断、現場活動					テキスト 495～496 ページを予習して臨む（概ね 30 分）					
9	痙攣とてんかん					テキスト 555 ページと 497 ページを予習して臨む（概ね 1 時間）					
10	痙攣の定義・概念、病態					テキスト 497～498 ページを予習して臨む（概ね 30 分）					

回	授業計画	準備学修
11	痙攣の分類、原因疾患	テキスト498～499ページを予習して臨む (概ね1時間)
12	痙攣の随伴症状、広義の痙攣、判断を要する病態	テキスト500ページを予習して臨む (概ね30分)
13	痙攣における緊急度・重症度判断と現場活動	テキスト501ページを予習して臨む (概ね30分)
14	運動麻痺運	解剖整理神経伝達経路を復習して臨む (概ね1時間)
15	動麻痺の定義・概念、発生機序、分類	テキスト503～504ページを予習して臨む (概ね30分)
16	運動麻痺の原因疾患、随伴症状、判断を要する病態	テキスト504～505ページを予習して臨む (概ね30分)
17	運動麻痺における緊急度・重症度判断と現場活動 めまいの定義・概念、発症機序	テキスト505～506ページを予習して臨む (概ね30分)
18	めまいの分類、随伴症状	テキスト507～509ページを予習して臨む (概ね1時間)
19	めまいの緊急度・重症度判断と現場活動	テキスト510ページを予習して臨む (概ね30分)
20	救急症候学Ⅰまとめ	各章、各項目の要点を再確認して臨む (概ね2時間)
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版	
参考文献		
備考	各症候ごとにチェックテストを実施します。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
救急救命士としての実務経験を活用して、正確な観察に基づく緊急度重症度判断が出来るよう基本的な部分から授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-DEM-01	
	●	●	●	●			
科目名	疾病救急医学Ⅰ				単位 認定者	堀口 雅司	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位
						授業時間数	40 時間
				授業形態	講義	授業回数	20 回
授業の概要	救急救命の現場で遭遇することの多い疾患について学修する。特に、脳血管障害は、循環系疾患とともに緊急度・重症度が高い疾患のひとつであり、救護の現場から医療機関の治療まで一連の流れが重要となる。また、わが国における全死亡数に占める肺炎の割合は高く、肺炎リスクの高い高齢者の増加、すなわち高齢化により、呼吸器系疾患に関する重要性も高い。さらに、循環系疾患は、状態が急激に変化し、致死的となり得ることや、早期に専門的治療を要することが特徴として挙げられ、救急救命の現場や搬送中に即座の判断が必要になることもあり、救急救命士に求められるものは大きい。「疾病救急医学Ⅰ」では、神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を学修する。救急救命士として様々な疾患を持つ患者に適切に対応できるようにするための、基本的な知識を修得する。						
到達目標	神経系の救急疾患で主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。神経系疾患の傷病者に共通する現場活動について説明できる。脳血管障害と脳卒中の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。呼吸器疾患の主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。呼吸器疾患における観察、緊急度・重症度の判断、主な原因疾患、症候について説明できる。主な呼吸器疾患の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。循環器疾患の主要な病名、症候をあげ、それぞれ説明できる。心臓突然死の概念、疫学、原因疾患について説明できる。主な循環器疾患の概念、疫学、種類、病因、病態、症候、現場活動について説明できる。主な不整脈を列挙し、それぞれの病態について説明できる。主な不整脈の典型的な心電図を判読できる。						
学修者への期待等	事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。						
回	授業計画				準備学修		
1	神経系疾患 総論（疫学と救急医療における意義、神経系疾患の主要症候、基本的対応）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
2	脳血管障害（概要、脳梗塞、一過性脳虚血発作、くも膜下出血、脳出血）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
3	中枢神経系の感染症（髄膜炎、脳炎、脳症）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
4	末梢神経疾患（ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチー）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
5	その他の中枢神経疾患（てんかん、脳腫瘍、変性疾患）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
6	呼吸器疾患 総論（疫学と救急医療における意義、呼吸系疾患の主要症候、基本的対応）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
7	上気道の疾患（急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
8	下気道と肺胞の疾患（気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、無気肺、気管支拡張症）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
9	感染症（肺炎、肺結核、急性上気道炎） 胸膜疾患（気胸、胸膜炎）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		
10	その他の呼吸器疾患（過換気症候群、肺癌、急性呼吸促拍症候群、間質性肺炎）				テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。		

回	授業計画	準備学修
11	循環系疾患 総論（疫学と救急医療における意義、循環系疾患の主要症候、基本的対応）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
12	動脈硬化（概念、病態）虚血性心疾患（概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
13	虚血性心疾患（不安定狭心症、安定狭心症）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
14	心筋疾患（心筋症、心筋炎）心膜疾患（心タンポナーデ、急性心膜炎）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	不整脈（不整脈とは、心室期外収縮、心室細動、心室頻拍）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
16	不整脈（心房細動、洞頻脈、房室ブロック、QT延長症候群、WPW症候群）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
17	心電図の観察（心電図の基礎、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
18	心電図の観察（期外収縮、心筋の虚血性変化、その他の心電図異常）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	その他の心疾患（心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患） 血管疾患（急性大動脈解離、大動脈瘤）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	血管疾患（深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症） 高血圧（高血圧症、高血圧緊急症）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第5章「疾病救急医学」で予習・復習すること（概ね1時間）。
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「新版からだの地図帳」佐藤達夫、講談社	
参考文献		
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却してフィードバックを行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
救急救命士として実務経験を活用して、救急医療では特に重要な神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患について、それぞれの発症機序、症候、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別処置及び搬送法等を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-TEM-01				
	●	●		●						
科目名	外傷学Ⅰ				単位 認定者	鈴木 宏俊		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内 課題等	30 %
						授業時間数	40 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		20 回	
授業の概要	外傷とは、広義では、機械的、物理的、化学的な外力により生じた組織・臓器の損傷のことをいう。「外傷学Ⅰ」では、外傷の疫学や外傷システム、頭部外傷、顔面・頸部外傷、脊椎・脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷等について、それぞれの受傷機転、発生機序、病態、症状、所見、予後、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法等を学修する。救急外傷疾患には、重症外傷でショックを伴うもの等があり、外傷により生じる生体の反応等、外傷の病態生理についても学ぶ。救急救命の現場で傷病者の命を救うための、外傷に対応する基礎知識を身につける。									
到達目標	1. 頭部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 2. 顔面・頸部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 3. 脊椎・脊髄外傷の傷病者の評価、病態・主な外傷、現場活動等について説明できる。 4. 胸部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。 5. 腹部外傷の傷病者の評価、病態、主な外傷、現場活動等について説明できる。									
学修者への 期待等	今日置かれている救急活動の重要性を認識し、どのような症例にも冷静に迅速的確な緊急度・重症度の判断と現場対応ができるよう知識、技術をしっかりと習得してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	受傷機転① 受傷機転とエネルギー					【事前・事後】標準テキストの受傷機転を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
2	受傷機転② 外傷の分類					【事前・事後】標準テキストの受傷機転を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
3	受傷機転③ 主な受傷形態 効果確認					【事前・事後】標準テキストの受傷機転を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
4	外傷の病態生理① 侵襲への反応					【事前・事後】標準テキストの外傷の病態生理を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
5	外傷の病態生理② 外傷に伴うショック、外傷によるショックに対する輸液 効果確認					【事前・事後】標準テキストの外傷の病態生理を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
6	外傷の現場活動① 状況評価					【事前・事後】標準テキストの外傷の現場活動を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
7	外傷の現場活動② 傷病者の評価(初期評価、全身観察、重点観察)					【事前・事後】標準テキストの外傷の現場活動を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
8	外傷の現場活動③ 傷病者の評価(緊急度・重症度とロードアンドゴーの判断、医療機関選定と搬送開始、搬送中の活動) 効果確認					【事前・事後】標準テキストの外傷の現場活動を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
9	頭部外傷① 疫学、受傷機転、病態、主な外傷					【事前・事後】標準テキストの頭部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				
10	頭部外傷② 現場活動 効果確認					【事前・事後】標準テキストの頭部外傷を読み、予習・復習をする。(概ね1時間)				

回	授業計画	準備学修
11	顔面・頸部外傷① 疫学、特徴、主な外傷	【事前・事後】標準テキストの顔面・頸部外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
12	顔面・頸部外傷② 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの顔面・頸部外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
13	脊椎・脊髄外傷① 疫学、脊椎損傷の受傷機転	【事前・事後】標準テキストの脊椎・脊髄外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
14	脊椎・脊髄外傷② 病態	【事前・事後】標準テキストの脊椎・脊髄外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
15	脊椎・脊髄外傷③ 主な外傷、現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの脊椎・脊髄外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
16	胸部外傷① 疫学、受傷機転、病態	【事前・事後】標準テキストの胸部外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
17	胸部外傷② 主な外傷	【事前・事後】標準テキストの胸部外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
18	胸部外傷③ 現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの胸部外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
19	腹部外傷① 疫学、受傷機転、病態	【事前・事後】標準テキストの腹部外傷を読み、予習・復習をする。（概ね1時間）
20	腹部外傷② 主な外傷、現場活動 効果確認	【事前・事後】標準テキストの腹部外傷を読み、予習・復習を行ってください。（概ね1時間）
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会編集、へるす出版社	
参考文献	「新版からだの地図帳」佐藤達夫監修、講談社	
備考	＊授業内で小テストを実施する。 ＊小テスト、効果確認は、次回の授業でフィードバックする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

救急救命士として、多くの救急現場に出場し、様々な症例を経験してきた。また、救急救命士としての経験を活かし、通信指令室（119番受付）では、市民への口頭指導を数多く行い、救命率の向上に務めた。その実務経験を活かし、救急活動について具体的にわかりやすく授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-2-CLP-01				
	●		●	●						
科目名	救急救命シミュレーションⅠ				単位 認定者	堀口 雅司、鈴木 宏俊 平川 正隆、佐藤武諭毅		評価 の 方 法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	5 単位		授業内 課題等	20 %
						授業時間数	150 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	75 回			
授業の概要	自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営むことができる救急救命士としての自覚を養う。傷病者の苦痛の軽減や症状の悪化防止に必要な観察法や応急処置等のシミュレーションを行い、救急救命処置の基本となる傷病者の観察と判断、応急処置に必要な知識と技術搬送法を修得する。また、傷病者の基本的観察や気道管理、呼吸管理、体位管理、体温管理等に必要な資材、機材の使用法や注意点等を理解し、実際の救急活動において的確に実践するための基本的技術を身につける。救急救命士として、傷病者の容態の安定化を図り生命維持を助けることのできる、傷病者に対する初期対応のプロとなるための技術の基礎を、シミュレーションを通して身につける。									
到達目標	救急隊員として活動することができる。救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を修得する。救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動を学修する。									
学修者への 期待等	演習はペアまたは小グループで行う。授業は全て実技を実施するので、演習時の服装は、実習着、運動靴を着用する。改訂第10版救急救命士標準テキストを持参する。演習で使用する人形は、本物の傷病者として扱うのとし、傷病者に失礼な態度がないように取り組むこと。事前にテキストやLMSへ掲載の資料等を熟読し、質問事項を用意して授業に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス① 救急資器材の確認、規律要領の説明 訓練礼式の基準、動作の基本、行動の基本									
2	授業ガイダンス② 救急資器材の確認、規律要領の実践 集合整列要領、各個訓練、号令等の指揮									
3	救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死線期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に教員からの解説、展示					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
4	救急蘇生法 成人（一般市民用：人工呼吸、死線期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 主に学生の実技					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
5	救急蘇生法 成人・小児・乳幼児（一般市民用：人工呼吸、死線期呼吸、胸骨圧迫、除細動） 効果確認（指導者役・受講生役）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
6	救急蘇生法（一般市民用：気道異物除去、止血法、固定法、三角巾の使用法、体位管理、体温管理）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
7	救急蘇生法（一般市民用：搬送法、熱傷の手当、熱中症の手当、法的責任、感染防止）					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」8 救急蘇生法で予習・復習すること（概ね1時間）。				
8	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に教員からの解説と展示					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
9	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				
10	傷病者の観察（観察の目的と意義、バイタルサイン、観察の方法）全身状態の観察（意識（JCS、GCS）、外見、気道、呼吸、循環） 主に学生の実技と効果確認					テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。				

回	授業計画	準備学修
11	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に教員からの解説、展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
12	局所の観察（皮膚、頭部、顔面、頸部、胸部、背部、腹部、鼠径部、会陰部、骨盤、手指、足趾、爪、各種病態の観察アルゴリズム） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
13	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
14	神経所見の観察（運動機能、感覚、髄膜刺激症候、失語症と構音障害、脳卒中スケール、神経学的異常の観察方法） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
15	傷病者の観察項目 （主に意識レベル、呼吸、循環、全身）	効果確認
16	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
17	緊急度・重症度判断トレーニング/内因性・外因性 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
18	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、血圧計、体温計、心電図モニター） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
19	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、血圧計、体温計、心電図モニター） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
20	資器材による観察（パルスオキシメータ、聴診器、血圧計、体温計、心電図モニター） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
21	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に教員からの解説と展示	
22	意識のある傷病者に対する活動要領① 主に学生の実技	
23	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
24	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
25	気道確保（手動的気道確保・エアウェイを用いた気道確保）、気道異物除去 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
26	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
27	酸素投与（各マスク）、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる各方式） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
28	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
29	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。
30	胸骨圧迫、自動式心マッサージ器の説明、電気ショック（半自動式除細動器） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね1時間）。

回	授業計画	準備学修
31	重症外傷傷病者に対する活動 (状況評価・初期評価)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
32	重症外傷傷病者に対する活動 (初期評価・全身観察)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
33	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、 器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
34	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、 器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
35	止血（止血帯、ターニケット）、創傷処置（種類、 器具、方法）、固定（種類、器具、方法） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
36	体位管理、体温管理、傷病者搬送（担架、ストッレ チャー、救急車） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
37	体位管理、体温管理、傷病者搬送（担架、ストッレ チャー、救急車） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
38	重症外傷傷病者に対する活動 (全身観察・重点観察)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
39	重症外傷傷病者に対する活動 (医療機関選定・車内活動)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
40	重症外傷傷病者に対する活動 (車内活動・詳細観察・継続観察)	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
41	重症外傷傷病者に対する活動 (車外救出・ヘルメット離脱) 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
42	重症外傷傷病者に対する活動 (車外救出・ヘルメット離脱) 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
43	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に教員からの解説と展示	
44	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に学生の実技	
45	心停止傷病者に対する活動（特定行為は除く） 主に学生の実技と効果確認	
46	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に教員からの解説と展示	
47	意識のある傷病者に対する活動要領② 主に学生の実技と効果確認	
48	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
49	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
50	声門上気道デバイスを用いた気道確保（各種） 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。

回	授業計画	準備学修
51	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
52	特定行為を含む救急隊活動①（外因性） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/ 4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
53	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、 カプノメータ 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
54	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、 カプノメータ 主に学生の実技（応用動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
55	気管挿管、ビデオ硬性喉頭鏡、気管吸引、 カプノメータ 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
56	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
57	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
58	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（応用動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
59	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技（全般）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
60	心停止傷病者への静脈路確保・輸液 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
61	器具による気道確保プロトコール（実技・病院連絡 要領）適応・判断・病院連絡 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
62	器具による気道確保プロトコール（実技・病院連絡 要領）適応・判断・病院連絡 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
63	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使 用 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
64	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使 用 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
65	心停止傷病者へのアドレナリン投与、エピペンの使 用 主に学生の実技（応用動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
66	心停止前傷病者への輸液 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
67	心停止前傷病者への輸液 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
68	血糖測定・ブドウ糖投与 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
69	血糖測定・ブドウ糖投与 主に学生の実技（基本動作）	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。
70	血糖測定・ブドウ糖投与 主に学生の実技と効果確認	テキスト第Ⅲ編専門分野 第2章「救急医学概論/ 救急救命処置概論」で予習・復習すること（概ね 1 時間）。

回	授業計画	準備学修
71	特定行為を含む救急隊活動②（外因性） 主に教員からの解説と展示	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね1時間）。
72	特定行為を含む救急隊活動②（外因性） 主に学生の実技	テキスト第Ⅲ編専門分野 第6章「外傷救急医学/4 外傷の現場活動」で予習・復習すること（概ね1時間）。
73	特定行為を含む救急隊活動③（内因性） 主に教員からの解説と展示	
74	特定行為を含む救急隊活動③（内因性） 主に学生の実技	
75	特定行為を含む救急隊活動③（内因性） 主に学生の実技と効果確認	
教科書	「救急救命士標準テキスト 改訂第10版」救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 「改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック」一般社団法人 JPTEC協議会 へるす出版 「救急技術マニュアル」（6訂版）救急業務研究会、東京法令出版 「救急処置スキルブック」〈上下巻〉（新訂第2版）田中秀治（総監修） 晴れ書房	
参考文献	4版 E.M.T Support Book 山本保博（監修）東京法令出版 改定第6版救急蘇生法の指針2020 医療従事者用 （へるす出版） 改訂第6版救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編 （へるす出版）	
備考	小テストは採点した後に模範解答と共に返却し、誤った回答に関して次回までのレポートとする。 各項目の最終日には、効果確認を行う。 ※この科目は救急救命シミュレーションⅡの履修要件として単位を修得していることが必須である。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
救急救命士として実務経験を活用して、救急活動の基本となる観察、判断、処置、評価を教授する。 救急救命士の基礎となる知識と技術、人間愛と思いやりの心を持った救急活動の重要性を指導する。